

みんなでつくる新しい雄武へ 議員にチャレンジした私の思い

オホーツク海に面した雄武町おむちまちは漁業と酪農業が盛んな町で人口は四四〇〇人。私は二〇一八年の町議会議員補欠選挙で議員になり、今年の統一地方選挙を経て、議員二年目になります。私がいつもご指導いただいているのは、元雄武町議会議員の三浦寿太郎さんです。三浦さんは、私が小学生の頃からずっと雄武町かわら版を発行しており、三浦さんの後ろ姿をみて議員としてのあり方を学ばせていただきより感謝しています。

私は一九八一年生まれで三七歳になります。中学三年生まで雄武で暮らし、高校時代は北海道の江別、大学は京都、就職で札幌に戻って三年間勤務しました。

大学を卒業して就職したのは、「ぎょうせい」という出版社で内勤事務をしていました。開発課という部署に所属し、入社してから一、二年は平成の大合併と時を同じくしていました。ぎょうせいの主なお客様は官公庁です。開発課では市町村の合併支援業務や総合計画、福祉関係の調査研究、講演会の講師派遣など多岐に渡って様々な体験をすることができました。

こうした経験が、議員にチャレンジする土台になったと思います。

私はなんとも頼りない職員でしたので、いつも

数多くの上司・先輩方に助けていただき過ぎていました。入社して二年目、仕事が終わった後に札幌学院大学の地域マネジメント研究課で学ぶことを決意。そこでの寺島さんという江別市役所に勤務されていた方との出会いが、自分はどこに軸足を置いて生きていくのだろうか？という問とともに、生まれ故郷である雄武町に戻るきっかけとなったのです。

雄武町に戻ってからは、実家が曾祖父の時代からつづく鮭定置漁業ということもあって、ホタテの稚貝養殖、鮭定置網の魚の選別などをしながら過ごしておりました。曾祖父の血が流れているからなのか浜仕事はとて楽しく血がたぎる感覚がありました。

そんなある日、名寄市で飲食店を営む方からスモークサーモンの作り方を教えていただく機会があり、サクラマスを使ってスモークサーモンを作るきっかけになりました。私は、冬のピーンと張り詰めた寒さのなかから香るスモークウッドの香りが大好きです。それはこの雄武という地域に住むことの幸せを再認識させてくれます。浜仕事を通じて、小学生や中学生の頃には知り合うことのできなかつた多くの方に出会いました。

結婚し夫が漁業を継いでくれましたが、二〇一

七年の暮れ仕事が合わず長年続けてきた鮭定置の仕事をやめることになりました。時を同じくして東京で参加したWWF(世界自然保護基金)のオーシャンチャレンジプログラムの中で、自分が思っていたよりも生まれ育った雄武やそこに住む人に対して強い思い入れがあることに気づいたのです。

そんな中、議員に挑戦したのは父からの後押しの一ひことでした。仕事を通じて作っていききたい未来は、「任んで良かった！雄武をもっと好きになった」と地域の方に思っていたくことです。議員の仕事は町の皆さんに身近に感じてもらうために、「オホーツクおうむ通信」を発行しどんな活動をしているのかお知らせしていきます。また、ファシリテートを学び、女性を対象としたまちづくりのイベントを開催したい思いがあります。そして地域経済分析システムのREASASを活用してまちづくりに生かしていきたい。先日は、北海道経済産業局職員が雄武に來町し、地域を分析してもらった機会を得ました。

やりたいことはたくさんありますが、大切にしていきたいと思うことは議員同士・役場の方とのつながりです。私はまだ三〇代後半で十分な社会経験ありません。今、雄武町議会には様々な仕事や社会を経験されたかたがおられますし、町行政を運営されているのは町長をはじめとした役員職員のみなさんです。今後とも、微力ではありますが精進し、まちのみなさんと力をあわせて議員・議会活動をしていきたいと思えます。

へえんどう ゆうこ・雄武町議会議員